

## 19 漢方が奏効した若年男性の 骨盤内静脈うっ滞症候群の一例

東京品川病院 泌尿器科  
青木 九里

【はじめに】骨盤内静脈うっ滞症候群 (intrapelvic venous congestion syndrome: IVCS) は下腹部痛、下腹部違和感、会陰部痛、排尿痛など慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群 (chronic prostatitis / chronic pelvic pain syndrome: CP/CPPS) に類似した症状を認める。

今回、CP/CPPS症状を有する若年男性のIVCSに、桂枝茯苓丸が奏効した症例を経験したので報告する。

【症例】14歳男性。数か月前から残尿感、腹圧性尿失禁の訴えで来院。10歳頃より尿道痛があり、真性包茎によるものと診断されていたが、包皮が自然に剥離できるようになっても尿道痛は改善しなかった。超音波断層法で前立腺周囲左右にcystic pattern様の低エコー域が数個認めた。造影CTで恥骨背側から前立腺周囲の静脈叢の発達を認めた。骨盤内静脈のうっ滞による症状と考え、桂枝茯苓丸を処方、加療2ヶ月後より排尿痛、残尿感、尿失禁は改善した。超音波断層法では前立腺右側のcystic patternが目立たなくなっていた。

### 【考察および結語】

IVCSの病因は、内陰部静脈の灌流不全に伴って骨盤内静脈血流が相対的に増加することと考えられ、内陰部静脈の通過する陰部神経管(Alcock管)の圧排が本疾患の発生に関与していると示唆されている。このように静脈がうっ血している状態を漢方の概念では瘀血といい、桂枝茯苓丸は駆瘀血剤の一つである。本漢方薬は桃仁、牡丹皮、芍薬、桂皮、茯苓からなり、桃仁・牡丹皮が駆瘀血作用、芍薬が止痛・鎮痙作用を有している。薬理作用としては血管内皮機能改善、血小板凝集能低下、赤血球変形能亢進、Ht低下などが報告されている。本症例の症状緩和には、桂枝茯苓丸が右側内陰部静脈の循環の改善に貢献している可能性があると思われた。